

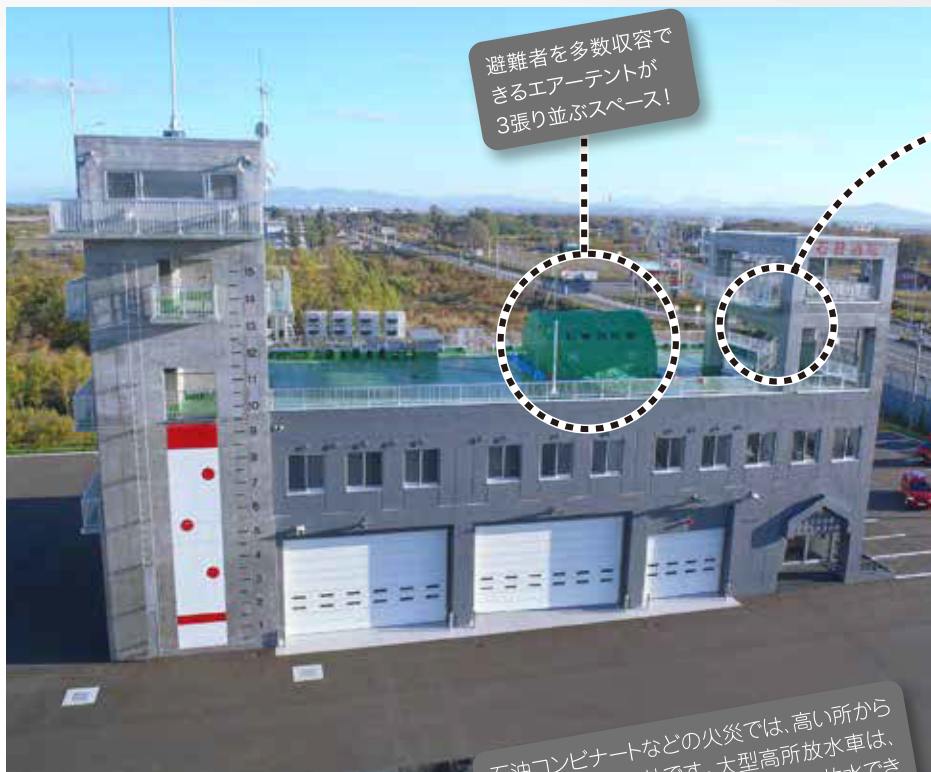
目指して

石狩湾新港支署の 機能と役割

石狩市は、まちの防災体制を強化するためハード面の整備として昨年9月、志美地区に石狩湾新港支署を新設しました。ここは石油コンビナートを抱える新港地区の防災拠点となるほか、石狩市で大規模な災害が発生した際、活動拠点が置かれることを想定して整備された施設です。今回はその機能と今後期待される役割についてご紹介します。



石狩消防署警備課 加賀順也



避難者を多数収容できるエアータントが3張り並ぶスペース!

外階段



津波避難用の外階段を使い、屋上に避難できます。

一番の特徴は約1万㎡という敷地面積の広さです。大規模災害が発生した際、ここが活動拠点になります。また国道沿いに位置するため、全国各地から応援に駆け付ける消防車や救助工作車、救急車などの緊急車両を受け入れる拠点にもなります。なお、救助などを行う活動要員たちが野営するためのテントスペース、全国から運び込まれる物資を保管するスペースも確保できるよう計画されています。

石油コンビナートなどの火災では、高い所からの放水が最も有効です。大型高所放水車は、冷却放水や消火泡を高所から大量に放水できるよう開発された車両で、地上高約25.5m、最大作業半径16mの屈折放水塔を装備し、リモコン操作も可能です。



大型高所放水車も配備

石油コンビナートなどもある石狩湾新港。その特別防災区域の災害に備え、ここには大型高所放水車も1台配備。高層建築物の火災への対応が期待されています。

ヘリポートも整備
陸に加え、空の輸
送ルートもしっかり
と確保しています。



つみやま 築山

海拔15mに造成された避難用高台。支署横にあり、約1,150人が避難できます。



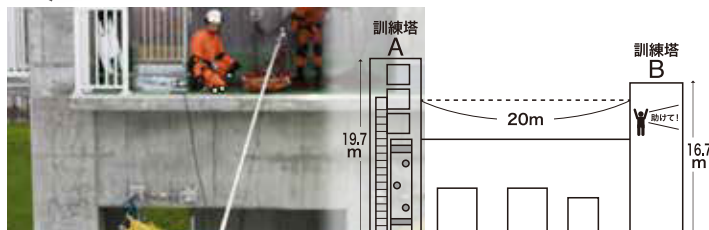
災害に強いまちを

石狩湾新港支署には、あらゆる災害に対応できるよう隊員たちが日ごろから訓練するための設備も整えられています。ここではその救助訓練の一部をご紹介します。



この日は加我司令補、平中司令補、小野寺士長、菊地士長、土生士長の5人による訓練

訓練塔Aに取り付けられた16.4mのはしごを登る隊員。この後、バスケット担架や滑車、運搬網など救助用資器材を上へ運びます。



訓練のイメージ図

◀訓練塔Aから20m離れた訓練塔Bへ水平移動しているところ。この日は、渡したロープをチロリアン渡過*で移動する訓練を実施。

※オーストリアのチロル地方で谷などに渡したロープを渡るときに使った方法



(左)訓練塔Bにいた負傷者を、(中)滑車などを用いながらバスケット担架で訓練塔Aへ運び、(右)安全に地上へと降ろすという流れ。なお、この日は重さが約36kgある人形を使って訓練を実施。強風が冷たく吹きつける厳しい状況下で、本番さながらに敢行されました。